31 沖縄県におけるネッタイシマカの侵入の有無及びヒトスジシマカの産卵消長に関する調査

○比嘉由紀子・當間孝子・岡村智子・寺田千春・宮城一郎（琉大・医・保健）・新城安哲・小野寺 至（沖縄県八重山福祉保健所）

Survey for invasion of *Aedes aegypti* and seasonal prevalence for oviposition of *Aedes albopictus* in Okinawa

Higa, Y., Toma, T., Okamura, T., Terada, C., Miyagi, I., Araki, Y., Onodera, I.

沖縄県におけるネッタイシマカの侵入の有無及びヒトスジシマカの産卵消長を明らかにする目的で、2002年5月～2003年5月にかけて、沖縄島、石垣島及び与那国島の港湾地区と隣接する住宅地域において産卵トラップ調査を行った。トラップにペーパータオル（以後ろ紙）を巻きつけ、1週毎にろ紙を回収した。ろ紙上に産みつけられた卵を原則として1ヶ月以内で数え、1週間水浸した時点で孵化した幼虫を飼育し、蛹または成虫で同定を行った。その結果、沖縄島、石垣島及び与那国島ではそれぞれ17,757個、11,190個及び28,375個の卵が採集され、与那国島でトウゴウヤブカが3個体同定された以外は全てヒトスジシマカ（25,467個体）であった。ネッタイシマカは確認されなかった。沖縄島における冬の一時期（12月の下旬から1ヶ月）をのぞき、沖縄県ではヒトスジシマカは冬でも産卵活動を行い、孵化率も高いことが明らかになった。

32 マレーシアで観察した卵塊を腹部下に保有する *Armigeres flavus* (Leicester) の生態

○宮城一郎・當間孝子（琉大・医・保健）・茂木幹義（佐賀大）・岡沢孝雄（金沢大・留学生センター）

Armigeres flavus (Leicester) holding egg raft under her abdomen in Peninsular Malaysia

Miyagi, I., Toma, T., Mogi, M., Okazawa, T.

2003年10月13日、午後8時頃マレーシア大学ゴンバック野外研究センターの実験室で作業中、腹部が異常に膨らんだ雌蚊が飛来し、机上の汚水容器上を巡回した。捕虫網で採し、実体顕微鏡下で観察した結果、腹部下に卵塊を保有する *Armigeres flavus* (Leicester) であることが判明した。直ちに蚊を観察用のガラス箱（10×5×2cm）に移し、接写レンズを通して観察・撮影した。蚊は両後脚の脛節と跗節第1節を折り曲げ、間に卵塊を抱え込んでいた。卵塊中の卵粒は互いに粘着物で固着され、飛行・静止時も後脚跗節の関節を伸ばすことはなかった。卵粒はすでに成熟し、卵殻を通して眼点がはっきり見えた。約30分後ガラス箱に水を注入すると雌は直ちに水面に飛び降り、両後脚を伸ばし、水面に卵塊を落した。同時に孵化幼虫が水中に遊出した。本種の生態、とくに卵塊保有蚊を写真で示し、この珍しい習性の適応的意義についても考察する。